21世紀COEプログラム委員会による
中間評価

21世紀COEプログラム委員会審査・評価部会では、平成15年度に採択された拠点のうち131拠点について、中間評価（書面・ヒアリング・合議評価、必要に応じての現地調査等）を実施しました。これは21世紀COEプログラム事業の効果的な実施を図り、その目的が充分達成されるよう、専門家や有識者による補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、研究拠点形成費等補助金の適正配分に資することを目的として行われるものです。審査・評価部会における当拠点の評価結果は以下のとおりです。

申　請　分　野	学際・複合・新領域
拠点プログラム名	「人類文化研究のための非文字資料の体系化」
中核となる専攻等名	歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻
事業推進担当者	（拠点リーダー）福田アジオ教授　他20名

総括評価

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。

コメント

本研究教育拠点形成計画は、日本常民文化研究所の調査研究の蓄積を踏まえて、新たな構想の下に設置された歴史民俗資料学研究科の研究者養成の実績を基礎に、文字に表現されない人間諸活動の資料化とその体系化を行うことで、人類文化研究の新たな地平を開き世界的に貢献することを目的としている。
本プログラムは重要な課題に挑戦しており、個々の活動分野については顕著な進展が見られ、生活絵引の資料化や実験展示等にその成果が結実していて、評価できる。体系化は段階的になされるのは止むを得ないが、今後、各分野における資料の体系化から、プログラムとして当初期待した統合的な「体系化」へさらに進展が見られることが期待される。

人材育成に関しては、その理念をより明確にして、社会的要請に応えられる博士の学位をより多く授与する努力が必要であると考える。

また、コメントに加え、留意事項として、成果刊行物、データベース、展示など、体系化についての最終的な形態を明確にするべきことなどが示されました。

今回の中間評価では、各プログラムに対し4つの評価のいずれかが出されました。本プログラムへの総括評価は、評価ランクの第2順位にあたります。学際・複合・新領域で中間評価の対象になったのは全部で25拠点でしたが、そのうち第1順位ともいうべき「当初の計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される」という総括評価が出されたのは7件、私たちのプログラムと同じ評価を受けた拠点が17件、そして第3順位ともいうべき「このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される」という評価が出された拠点が1件でした。なお、「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われる」という最も厳しい評価が出された拠点はありませんでした。

私どもは、評価で出されたコメント及び留意事項を真摯に受け止め、来年度以降の研究に取り組む覚悟です。